

刊夕日二十月五

# 常磐每日新聞

定価 一月五拾圓 郵費五拾圓  
 廣告料 五拾圓 行金五拾圓  
 日曜祭日の翌日休刊  
 発行所 常磐毎日新聞社  
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

## なくて七癖考 (3)

半羊

マイケルド・モンタンユは極めて文才に充ちてゐたが殊の外迷信家で、常に奇數を尙び他家に招れ將に食卓に就かんとするに當つて若しそれが偶數と判ると一言もなく辭りもなく其處を抜け出した、それに金曜日に来るとその日には何か我身に變事が起らぬかと心配でならなかつた。この金曜日嫌ひには英詩人ジョージ・バイロンもゐた、此の人は産れると直ぐ跛と成つたが名論卓説を吐くので上院の花と呼ばれた、その著作物も己に獨佛伊露の各國語に翻譯され價値を認められてゐたが平素夢の知らせとか前兆とかと云ふものに信を置き妖怪變化をも確信してゐた。ペリゴルト・タレールは佛國に於ける大政治家には相違ないが人類に對し一種の恐怖心を抱いてゐた。エリザベス女王も亦人間の斷末魔を忌み侍臣にも死の語さへ用ゆる事を許さなかつた佛國の畫家ルツ・ソールや英國の哲學者トーマス・ホッブスや法理學者サミュエル・ロバートは何れも日が暮れると何んとなく、薄氣味悪く、夜分の外出は一切叶はなかつた、殊にロ

ミリーは誰か己の寢臺の下に隠れてはゐないかと心配の餘り、一夜に數回飛び起きて蠟燭に火を點し異常の如何を見定めることであつた。

仇敵よりか反つて懇友に狙はれてゐた、ジュリユス・シーザの名は聞いたばかりで泣く兒も歌んだとこのとだが、そのやうな豪傑でも雷鳴がすると即座に棒立ちとなり暫らくは無言の態度であつた、聖書の註釋で名を成したトーマス・アッタナスも雷鳴中は必ず一室に潜んで死人同様であつた。劇作家のゾオルテールは除分瘦せて骸骨のやうであつたが、膽玉は非常にたく何事も怖れなかつた、それでも鴉が囁々と啼く度に、何時も氣が遠くなつたさうである。

露國の海軍を創設し「水の王」として一世に響いた彼得大帝は實はその水を見ることが大の嫌ひで爲めにモセラ河を引入れた離宮には一切お立寄りがなく、何れへ行幸さるゝにも河水を過ぎる事を避けられ、萬一にも橋を渡るを餘儀ざる場合には何時も鳳輦の扉を閉ざることゝ爲されてゐたが、それでも渡り終られた時は全身冷汗であらせられたロバート・ポイルと云へ

## 新刊紹介

### 『櫻關室直養傳』

郷土人必讀の書

舊平藩の儒臣室櫻關先生の偉大な足跡を永久に記録し郷土の偉人を廣く社會に顯彰せんとした室櫻關先生傳刊行會(代表青沼隆太郎氏)が著述家横根樟一氏を編纂員に擧げて刊行したるもので菊判三百餘頁、巻頭(泉)内藤(湯長谷)三子爵の題字を掲げてゐる、翁一代の事歴を當時の世相を背景にして精細に亘つて記述してある、當時の文書を参考として掲載してあるだけ翁の事蹟だけでなく當時の様子を知る上に於いても必讀の書である、刊行會長き年月を閲して世に發表するだけに一讀してこの大書編纂の苦辛が窺はれる近來に於ける郷土の誇りとして推稱する。

# 外科

門專光X  
 科線  
 上田外科醫院  
 平町南町  
 電話一九二番

## 是非!

御融通には御利用下さい  
 萬事便利な御相談に應じます

## 三井質店

平四・電六〇六番

## 喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

平田町九六  
 喜多流 謠曲 仕舞 白土會  
 電話二二七番

## 電話一〇八番開設

毎度有難う御座います  
 ベーカリー東京堂もウマイパンとの御評判で喜んで居ります  
 此度電話一〇八番を開設致しました  
 ドン／＼御利用を願ひます

搔搔小路  
 ベーカリー東京堂  
 電話一〇八番

# 高久病院

院長 醫學士 高久忠  
 副院長 新潟醫學士 赤羽清  
 藥局長 藥劑師 佐竹菊雄  
 平町田町 電話五二三番  
 内科小兒科 外科花柳病科  
 耳鼻咽喉科 レントゲン科

## 吸入用酸素純度99%

度量度 モノサシ  
 換量度 マス  
 ハカリ  
 秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス  
 體溫計  
 寒暖計

## 關内藥局

電話四〇番

寫真材料一式販賣致シマス  
 漆器の御用は皆様の丸共へ御用命下さい……  
 卸賣特に御務め勉強致します。

## 共榮漆器店

景品賞品類  
 進物贈答品  
 恩賜賞與品  
 記念表彰品  
 各國産漆器  
 平町三丁目北裏通

## 電話新設

電話一三一一番  
 上原家政婦會  
 紺屋町二三番地

# 商取引盛況...

## 電報發着數が

### 如實に物語る

平局の電信事務は東京、水戸、仙臺の主要局を控へてゐる關係上その繁忙さは本縣隨一であるが去る一月より四月までの着信、發送中繼數は左の如く着信總數一萬三千六百五十五通、發信總數九千九百五十五通中繼總數十三萬八千七百二十六通で昨年と比較して發信四百十通、着信四百二十一通、中繼一萬八千二百七十六通のいづれも増加で特に花見季に當つた四月は最も繁忙を極めたが同局と最大通信をなすのは流石に東京中央局でこれらのうち最も利用されてゐるものは商業取引

の電報であると(括弧内は前年對比)

▲發信

一月	二五九〇	(二六減)
二月	二五九〇	(四六増)
三月	二五九〇	(六〇減)
四月	二五九〇	(三三増)

▲着信

一月	一五七六	(一五減)
二月	一五七六	(四九増)
三月	一五七六	(一四減)
四月	一五七六	(二二増)

▲中繼

一月	一三三六	(一三三増)
二月	一三三六	(八五増)
三月	一三三六	(三五増)
四月	一三三六	(三〇七増)

## 米價益々上騰

昨日の共販九圓二十錢 尙ほ今後も續騰の氣配

石城地方の正米取引は叔貯藏の關係から農家の持米薄の影響を受けて相場はデリの押しの高騰を續けてゐるが昨日平農倉庫で行はれた郡聯合米共同販賣は出荷俵數六百一俵で開札の結果九圓四十一錢をもつて入山炭礦に落札したが前回一圓の共販に比し二十一錢(二)

騰尙ほ今後も續騰の氣配である

### 北部校長會議

區神谷、草野、夏井、高久、豊間、大浦、大野第一、第二、四倉の各小學校校長は来る十六日午前九時より草野小學校に開催、今年度の事業に就いて種々協議すると

小名商業認可 小名濱町立實業學校では教科目

## 大麥の先賣

### 取引が盛ん

#### 米を賣る農家が

#### 飯米に事欠いて

本郡山間方部農村の窮迫農家は種籾から屑米まで賣り拂つて肥料代に入れ副作物の甘藷や野菜物を賣つて飯米を購入してゐたが米價暴騰の現在では賣る物も缺乏し、米を作る農家が明日の飯米に事欠く悲惨な状態に止むなく各農家では目下出穂期中の大麥青作を先賣りし一時の苦境を凌がんとす

るもの續出し一俵四圓乃至四圓五十錢で大麥の先賣り取引が盛んに行はれてゐる

學校法規研究 平町各小學校教務主任會は來月五日午前九時から第一小學校に於いて法規の研究會を開くが講師は元第一校長會我直治氏である

## 郵便貯金

### 益々加増

平郵便局に於ける去る四月中の郵便貯金取扱高は受け入れ四千三百四十七圓の十

七錢で拂戻しより受け入れの方が七千七百四十八圓六錢多く昨年の同期取扱高受け入れ四千三百七十一圓の十

中に商業科を加へる爲め過般縣に對し申請中の處此程認可された

### 商業庭球出場

平商業學校庭球部では来る廿七日福島高等商業學校主催で開かれる關東北中等學校三組選手權大會に左記メンバーを出場せしめると

湯淺小林組、鈴木本田組、木田城本組

## 鮮魚の速達輸送

### 石城各濱がトラツクと協定

漸く活氣づいて來た小名濱江名、豊間の各漁業組合魚市場等ではトラック業者と衝折中だつたスピード輸送が纏まつたので豊漁期をまつて開始する事となつた即ち普通の場合でも東は米澤市西は水戸地方まで最大限五時間以内に運搬しそのうち生きのよい鰹、鯛、鮪等を一般家庭の食膳に供しやうとする鮮魚の速達輸送で成果を大いに期待されてゐる

に於て千三百十三圓二十四錢の増加を示した

### 通信簿を改正

平町の各小學校で現在使用中の兒童通信簿は新學年毎に取替へる用式であつたが本年度より尋常科及び高等科の全成績を一纏めとし一冊の通信簿で一覽出来る様改正すべく昨日三校教務主任が第一校に於いて改正方法を協議した

### 平職案紹介所報告

回人を求める方  
△探炭夫(五十名)十八才  
三十五才 尋卒以上 日  
給一圓一三圓

## 郡下小學校

### 統計審査會

廿三、四兩日に縣主催郡下各小學校の通學事統計審査會は本月廿三、廿四の兩日平町團體事務所樓上に各學校統計主任出席の上開かれるが町村別日割左如くである

△理髮女工 十五—十八才  
位 尋卒 仕着小遣  
△農夫 四十才以下 年七  
十圓—百二十圓迄  
△湯屋水汲 四、五十才位  
月五、六圓位  
△印刷工 二十才前後 高  
卒 給料面談

# 院醫科齒村中

七町冶鍛町平

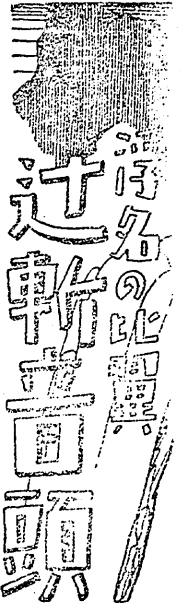
# 院醫科外村木

際橋目丁六町平  
〇九三話電

りあ便の院入炊自

回職を求める方  
△事務員見習 二十一才  
高卒  
△農業 三十七才 高卒  
△事務員 四十六才 高等  
蠶糸校卒  
△土工夫 二十七才 高卒  
△配達夫 二十六才 高卒





田邊南龍(作) 山本英春(畫)

—三〇—

主人が召捕 『知らねえなア、第一に長袖に掛ける繩、亂心者に掛ける繩、女に掛ける繩、出家に掛ける繩と銘々身分によつて繩の掛方が違ふ、お前知つて居るけえ』

『乃公も知らねえ』 『夫ぢやア何うも困つたもんだ』

此の時本多様は不圖思ひついたによつて 『此いつア餘人では抵抗をするだらう、主人を召し捕りに遣つたら溫和く繩に就くかも知れん、庄右衛門に召取り役を申付ろ』

と言ふ上意、直様此由申付けると 『畏まりました』

と仲間を連れて馬場へ来て見ると、伊太郎威張つて居る 『伊太郎とは御身のことか』

『左様……』 『當家の家來庄右衛門上意によつて召しとりに來た、神妙に致せよ』

此言を聞くや腰の物を取つて前に投出し、懐中の物を其處へ投出しました伊太郎

『御重役の御出張に預かり恐縮千萬、イザ御繩頂計仕

りませす』 『神妙の事だ、夫なれば繩に掛けるに及ばん、待の無刀は外見無い者だによつて帯刀しなさい』

『恐れ入ります』 『恐れ入るには及ばぬ』 『それでは』

『能く壯健で歸つて來た、好い事をしました』

と云つて皆々叮嚀にいたさせて置きました、御前へ出ました庄右衛門が 『扱て斯うく、斯様にいたしました』

『然うか彦坂傳八郎は當家の槍術の指南をして居る者でありながら、仲間如きには』

大層庄右衛門は喜んで立歸つて來て、常平に其の趣きを申し聞けると 『思召しの程は有難いが、父伊織の遺言には旗本大名へ直接に奉公いたしてはならん、寺澤様の家再興いたしなば歸參をいたすやうにと云ふ事でございませう何卒仰せに従ひ申上げます』

此儀はお断り申上げます 『成程お父さんの御遺言で故主へ歸らうと云ふのは道理至極』

強てと云ふ譯に往かんから御前へ出て 『斯様申しまするが如何』

『成程、然し寺澤の家が再興をいたすまで當家へ奉行をしろ、天草一件に就ては板倉膳正(重昌)が討死いたして居るから何うも寺澤、板倉が立とうとは思はれない立歸つたら歸參を申付ろ其時まで仕へる様に』

『誠に有難き仕合せ、唯當人も悦びませう』

『さて斯うく被仰つたがどうだ』

◎御家庭薬として是非御用意下さい 熱い火や湯でヤケドなされた時直ぐツケますればヒブクレンにならずなほります

キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さい。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキレイに治ります。

キリ印 ヤケド キリキズ クサ はたのアレ シモヤケ あかざれ 平町古鍛冶町一〇



と云つて刀を帶し、懐中を元の通り納めて庄右衛門と同道致して長屋へ戻つて來る、一子庄太郎、弟庄次郎、庄右衛門の妻など其處へ出まして

負を取るとは武藝不鍛錬の者、二百石は改易申し付け、常平儀は若黨にいたし置くは惜き者であるに依つて此の者は二百石で召抱へるから左様申せ』

耳鼻咽喉科 大和 田醫院 平町南一 電話一〇七六番

一册の代金で 御希望通りな

五册の雑誌が 自由に讀める

川崎 回文庫 電六三〇番 (申込次第規則書進呈)

◎御家庭薬として是非御用意下さい 熱い火や湯でヤケドなされた時直ぐツケますればヒブクレンにならずなほります

キリ印太乙膏があれば安心です、お試用見本無料で差上げますからドウゾ御遠慮なくいらして下さい。殊にクサにはモットモ良く二、三回ツケればキレイに治ります。

阿康藥舗 電話四四四番

◆評判で香りのよい

電熱ほうじ茶發賣

一號 一斤六〇 四半斤 一五二號 一斤四〇 四半斤 一〇

大勝園 大黒ばしらば家の王 お勝手道具は世帯王 大勝園で買った茶は茶問のの玉よ客問王 父様母様おやすみの茶 客のほめる茶 喜ぶ茶

平三 大勝園 電三九六番

新車購入御披露

御待ち兼ねの一九三四年マスターセダン!!!本縣下の第一車が皆様 の昭和へ入りましたニイアクシヨ ン装置絶好の乗心地是非御試乗の程 御願ひ致します。 呼び良い電話三四〇番増設致しました。

平町前 昭和タクシー 電話三四〇番 三四三番

吉田眼科病院 院長 吉田 安雄

眼科専門 醫學士 吉田 久雄